

放射線診断科臨床研修プログラム

研修の到達目標

1. 日常診療・救急診療で遭遇する疾患の画像を理解し、適切な検査計画を立案できるようにする。
2. 画像下治療（IVR）について、適切にコンサルトできるように、その基本を身につける。

放射線診断科研修中に身につけるべき資質・能力【技能・問題解決・解釈・態度】

1. 人体の横断解剖について述べることができる。（解釈）
2. Common disease・救急疾患の画像所見を述べることができる。（解釈、問題解決）
3. Common disease・救急疾患の検査の指示を適切に出すことができる。（問題解決）
4. 造影剤の副作用、適応や禁忌について述べることができる。（解釈）
5. IVR 治療にどのようなものがあるかを知り、当科で行われる IVR については適応や禁忌、合併症に関して述べるができる。（技能、問題解決）
6. 放射線科技師や看護師とともにチームの一員として協調できる。（態度）

研修方略

On the job training (ON-JT)

1. 読影室にて、CT、MRI を中心とする画像の一次読影を行い、レポートを作成することで、疾患の画像所見や人体の解剖について学ぶ。
2. 消化器科や乳腺科のカンファレンスに参加し、他診療科とのコミュニケーションを図る。
3. IVR には主に助手として参画するが、事前にその適応や方法については予習を行う。当科で行っているものの多くは中心静脈の確保であるが、それに関しては経験に応じて術者として実施する。
4. 研修期間中に経験できる症例は限られているので、common disease の画像所見について記載されている基礎的なテキストは通読する。レポートシステム内のティーチングフィルムも適宜閲覧が可能である。

週間予定表

	月	火	水	木	金	不定期
午前	読影	読影	読影	読影	読影	
午後	読影	読影 or IVR	読影	読影 or IVR	読影	
夕方		乳腺カンファレンス		消化器カンファレンス		時間外対応 (任意参加)

評価

研修中の評価（形成的評価とフィードバック）

週間予定表に示した On-JT のさまざまな経験の場で、到達目標の達成状況について、指導医、上級医、指導者による形成的評価とフィードバックが行われる。

研修後の評価

研修医に対する形成的評価

1. 研修終了後に EPOC2 に研修医が入力した自己評価を元に、指導医、上級医、およびメディカルスタッフが評価表に評価を記載する。
2. 1. の評価表を集約して、責任指導医が研修医評価表 I、II、III に達成度評価を記載する。
3. 1,2 はプログラム責任者に提出され、定期的な形成的評価とフィードバックに役立てられる。
4. 研修終了時に研修医は自己評価表に記入する。これもプログラム責任者に提出され、形成的評価とフィードバックに役立てられる。

指導医、研修プログラムに対する形成的評価

1. 研修終了後に、研修医とメディカルスタッフは指導医に対する評価表を記入する。
2. 1 はプログラム責任者に提出され、臨床研修管理委員会などの場でフィードバックが行われ、指導医の指導状況と研修プログラムの改善のために活用される。

総括的評価

1. 放射線診断科研修では、総括的評価は行われない。2年間の研修修了時に臨床研修管理委員会が修了判定の総括的評価を行うが、放射線診断科研修の形成的評価もその材料となる。

指導体制

研修責任者

加藤洋

指導医

加藤洋